

みぬま通信 第74号

2018年4月



見沼たんぼくらぶのイベント

コスモス栽培から菜の花栽培へ

見沼田んぼには美しい風景が沢山あります。春は東西の縁を流れる代用水沿いの桜並木、秋は黄金色の稲穂と一体となった斜面林など四季折々楽しめます。そんな景観の一助になればと、菜の花とコスモスの栽培を行っており、畑一面に黄色い菜の花や色とりどりのコスモスが咲き乱れる様を創り出しています。

菜の花は、11月上旬に種を蒔き3月下旬～4月中旬に見ごろを迎えるように、コスモスは7月上旬に種を蒔き9月上旬～10月上旬に見ごろが来るよう作業を進めています。

今年も秋のコスモスの花が終わった後、菜の花栽培のため除草・耕耘・施肥・播種を行ない春の開花に備えました。



菜の花の花言葉は「快活」「明るさ」で空に向かって咲き誇る姿、花色の黄色の鮮やかさから元気なイメージをもち、つけられたといわれています。

この花言葉にピッタリな子供たちに見沼田んぼで花摘みを例年どうり体験していただく予定です。場所は緑区大字見沼413番地で面積1200m²。

(三上 雅央記)

斜面林の体験学習—落葉かき 大和田緑地公園特別緑地保全地区

2017年12月10日（日）午前、大宮体育館南側に広がる約2haの大和田緑地公園特別緑地保全地区の中で、落葉かきの体験学習を実施した。当緑地は雑木林群と屋敷林と谷地と多目的広場で構成されている。



当日の作業地は多目的広場のコナラ・クヌギ幼樹畠及び北部雑木林で行われた。幼樹は市民の里親がドングリから一年かけて育てたもので、この畠でさらに大きくして、さいたま市内各地の雑木林に移植するものだ。

雑木林の落葉かきも、霜がおりないように一皮ほどは落葉を残し、あとは熊手で集めて除去する。それで、日光が地面まで届き、春になると、タチツボスミレに始まりホウチャクソウ、アマドコロ、ジュウニヒトエ、フタリシズカなど林床植物のお花畠が出現するのだ。

落葉かきに爽やかな汗を流した参加者は、埼玉県土地水政策課の村田圭一主査はじめ26名。

(小野 達二記)

見沼たんぽくらぶのイベント

見沼塾「見沼たんぽの野鳥」

小峯 昇

今日は立春。寒さも底を過ぎたかな?と思われる日差しの中、見沼たんぽくらぶ、さいたまフレンドの会員を中心に25名の方が集まりました。

桜並木沿いに、芝川を目指して出発です。スー
ッと道を横切り、桜の枝先に留まった鳥がいました。
モズです。早い者勝ちということで望遠鏡を覗いてもらいましたが、残念ながら3名様限定となり、斜面下の芝生広場に飛んでいきました、横にはツグミも見えます。

何か飛んでます!という声を聞き、上空を見上



げましたが、小枝が邪魔でよくわかりません。急いで上空を見渡せる場所まで行き、上を見ると猛禽類のようです。時々、翼をはためかせながらゆっくりと輪を描いています。だいぶ高いので写真判定に撮影しました。どうやらオオタカのようです。



ひょうたん池の奥に何か浮かんでいます。望遠鏡に入れたと同時に潜水してしまい、出てきたと思ったら、またしても潜水です、カイツブリですね。こんな遠くからわかるのかな?

プール横に来た時、桜の木から「ギーギー」と戸のきしんだような声がしました。コゲラです。

プール横に来た時、桜の木から「ギーギー」と戸のきしんだような声がしました。コゲラです。

2羽が幹を回るようにして登っていきます。キツツキの雄は頭部が赤いのですが、コゲラの雄は写真のように頭部に赤い羽が少しあります。わかりますか?

芝川ではヒドリガモが浮いていました。その横をやや大きめなカモが泳いで行きます。シックな色合いのオカヨシガモです。

ロッテリアの手前に、ゴイサギのねぐらになっている常緑樹があり、早起きバードウォッキング

の時にゴイサギの成鳥がウトウトしているのを確認したのですが、いません、なぜか幼鳥に入れ替わって?いました。

第3公園の池ではヨシを背にアオサギがお休み中です、その脇にはコガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、雄のホシハジロなども頭を羽にうずめていました。と、そこへカモが舞い降りてきました。ヨシガモです。

雄の特徴的な頭部の形(ナポレオンハット)と鮮やかな緑色を確認できました。

最後に、スズメを見つけたときに、「なんだスズメか」ではなく「おっ、スズメだ!」というように、感動を持って観察することができれば、野鳥の世界に一步踏みこめますよと、締めくくりました。

観察された鳥 アオサギ、アオジ、ウグイス、オオタカ、オオバン、オカヨシガモ、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カワラヒワ、キジバト、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、スズメ、ダイサギ、ツグミ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒドリガモ、ヒヨドリ、ホオジロ、ホシハジロ、ムクドリ、メジロ、モズ、ヨシガモ、 33種



見沼たんぼ地域の会員関係イベント

水彩画展の開催

今年の「見沼スケッチ会・水彩画展」は、2月20日から25日までの6日間、さいたま市立大宮図書館・展示室にて行われた。八木一郎先生の主宰するスケッチ会の皆さんの展示会で今回で11回目におよんでいる。

この会に入会されている皆さんは初心者から経験者まで幅広く、現在50名ほどの方々が所属する団体となっている。さいたま市北東部に広がる大規模緑地の見沼たんぼ、そしてその中を流れる見沼代用水流域の景色等を主題に水彩画を描き続けている。

展示会場に入ると、グループで見学にやって来た人や、ご夫婦で来た人たちと色々だ。先ほどから、幼稚園児風のお孫さんを連れた年配の男性が、



水田の絵を見ながら、腕を大きく広げたり指の先に何かをつかむ様な恰好をして説明している。耳を澄ますと田植え、草取り、刈り入れ等の作業について教えているのだった。

お米をどこで作るのか、そしてどのような方法で作るのか・・・等、子供にとっては不思議だったのであろう。

今回の展示会でも、作品の中に赤、青、黄と賑やかに咲く花、歴史の刻まれた格式ある社寺、池に遊ぶ水鳥の姿等々、沢山の作品に触れる事が出来、まるで見沼たんぼをゆっくりと歩いているような気持ちになってしまった。子供たちも水彩画から学ぶべきことが沢山あったようで、十分な満足顔をして室外に消えて行くのでした。

(召田 紀雄記)

雑木林体験・保全作業と

シイタケの種ごま打ち

さいたま市みどり愛護会は2月24日午前恒例の「雑木林体験・保全作業とシイタケの種ごま打ち」を実施した。さいたま市みどり愛護会は平成8年大宮みどり愛護会として発足し、その後さいたま市誕生に伴い現名に改称して、市内の市の所有地・借地の特別緑地保全地区・自然緑地の雑



木林を各支部が分担して、毎月1~2回定期的な保全活動を行うボランティア団体である。毎年、この時期に実施される本事業は、市による公募者・本会会員・ドングリ里親協力者による80名超の参加者によるものであった。作業の前半は大和田緑地公園・特別緑地保全地区(見沼区)の雑木林の落葉搔きである。上段の写真(木戸口美香氏撮影)はその作業開始の具体的な作業要領の説明風景である。これらの作業は熊手などの道具を活用し、参加者相互の連携作業によって予定した地域を概ね1時間で効果的に完了することができた。

引続き、多目的広場において、後半のシイタケの種ごま打ち作業である。本会保全活動対象の雑木林の間伐材等の幹や枝をシイタケの榤木(ほだぎ=椎茸等を栽培するため伐った木のこと)として活用する。作業内容は事前に榤木に種ごまを打ち込む穴を電動ドリルで開けて置き、それに参加者が小槌で種ごまを打ち込むのである。参加の子供たちも器用な手付きで初体験を楽しんでいた。仕上がったシイタケ榤木は参加者に持ち帰って頂くことになる。各家庭での栽培管理等について、会から資料配布・栽培成果の写真を示して、それらの成果が充分上がるよう期待することにした。

(若野 忠男記)

見沼たんぽ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎

さいたま新都心駅：さいたま新都心一帯はかつて旧国鉄大宮操車場があったところ。大宮駅南端から与野駅付近までの広大な敷地に無数の線路が広がり、貨物列車のヤードとして活躍したが、時代の変遷とともに輸送手段も自動車へ移り、現在は線路数2本を残すのみとなった。現在は多くの官公庁や日赤、小児医療センターなどの公共施設とともに多くの民間企業も進出、スーパー・アリーナやコクーンなどの多数ファンが集まる施設もあり、中・高層ビルが立ち並ぶビル街となった。なお広い東西自由通路もあって人通りは絶え間がない。駅の一番ホーム（与野側）には、見沼代用水西縁から北袋で分水した高沼用水路がレールの下を通過しているのを見ることができる。



鷺神社：JR土呂駅

から徒歩で「市民の森」

経由約15分、見沼を望む台地際の急崖「ワシ山耕地」に鎮座し、中世の大田の総鎮守である鷺宮神社を勧請して創建された旧大和田村の鎮守。村人は教育熱心で明治30年建立の小学校修築の石碑にそれが刻まれている。樹叢に囲まれた静かな佇まいの中、絶えることなく人がお参りに訪れていた。



氷川参道一の鳥居(中山道)：さいたま新都心駅から中山道を北へ徒歩10分、武藏一宮氷川神社の大きな一の鳥居が右側に出現する。これから三の鳥居までの2kmにわたる参道にはケヤキを中心とした凡そ700本の樹木がつづいており、春の桜、夏の緑陰、冬の毅然とした木立など四季折々の変化が楽しめる貴重な緑の空間となっている。なお二の鳥居は昭和51年明治神宮から奉納されたもので日本一の大きさを誇る。



見沼たんぽくらぶ会員作品展 さぎ山記念自然公園・野外キャンプ場

作者 阿部由美子

見沼自然公園から見沼代用水東縁を渡って少し坂道を登ると、緑豊かな場所がありました。入口には「キャンプ場」と書かれた門があり、賑やかな声がきこえ沢山の若者が集まつており、丁度バーベキュー準備の最中でした。

興味ある対象と思い早速描き始めましたが、炊事場になっている建物の屋根が一般と違って上下の長さが逆になっており、デッサンをするのに悩みました。

5月初めとはいえ暑い盛りでしたが、バーベキューを作っていた人からお茶をいただきて有り難く思いました。

(キャンプ場の公式名は「さぎ山記念公園・青少年野外活動センター」でした)



見沼たんぽ探訪記

みぬま見聞館の正月

1月の初旬、見沼区・上山口新田にある「みぬま見聞館」に行く。大宮南部浄化センターに併設されているが、この管理棟の2階にあり、見沼の自然や歴史について見聞を広める事が出来る。

玄関を入ると直ぐに階段があり2階へと誘導される。明るく広い部屋になっていて、窓際には望遠鏡が距離を置いて4～5セット並んでおり、芝川の様子や付近の様子が観察出来る。部屋の中にはパネルがあちこちに立っており見沼の歴史・伝説・神社仏閣、動物、植物、野鳥、昆虫・・・等とそれぞれの分野に分け、大小の写真やイラストを掲げ、丁寧な解説文を添えて説明している。

建物の外に出るとビオトープを兼ねた自然庭園が待っている。見沼たんぽ、斜面林、芝川や代用水等、見沼地域の自然環境を培ってきた樹木や水の流れ等を復元している庭園である。

園内に入るとスダジイやシラカシの木々は緑葉を付けているが、クヌギやコナラ等、多くの木々は落葉している。あちこちに目をやりながら木道を進むと、年配のご夫婦が「向こうの隅に、マンリョウの木がありましたよ」と教えてくれた。

指さす方に進むとマンリョウと記した木名板の脇に紅の実を付け、丈が40cm程の低木がある



ではないか。沢山のお金を想像させてくれるお正月の縁起木として昔から親しまれている木である。同じ縁起木としての「センリョウ」が直ぐ近くにあったが、庭園の担当者が来園者に、「心を豊かにして貰おう」と配慮して植えたのであろうか。

(召田 紀雄記)

冬の芝川沿いを歩く

この場所は、昨年のみぬま通信第70号で紹介をさせていただいた、「見沼通船堀」を含めて歩けるコースとしてもよいかと思います。

健脚の方であれば、通船堀から芝川をさかのぼるように進むと、芝川第一調節池と少し先の浦和くらしの博物館民家園へと進むことが出来ます。

今回訪れたのは、2月半ばの良く晴れた日で、調節池ではオオハクチョウを見に来たという30名ほどのグループと一緒にになりました。オオハクチョウは3羽いましたが、その他にも300羽近いカモやオオバン、カツブリなどが来ていて、中には珍しいカンムリカツブリの姿もありました。

猛禽のチュウヒも何度も姿を見せましたが遠すぎてカメラに収めることはできませんでした。芝川に沿った調節池としては、さいたま市内最大の広さを誇り東京ドーム約20個分もあるそうです。

調節池の周りは遊歩道が整備されていて約40分で歩けます。視界を遮るものがないので、数人で歩いても迷子になることはなさそうです。



そのまま芝川沿いに進むと、民家園の建物群が見えてきます。ここには江戸時代の民家や店舗がいくつも移築されていて園内には、畠や水辺その他竹林や展示館もあり、ここだけでも1時間ぐらいはのんびり過ごせます。

調節池と民家園を時間をかけてゆっくり歩くつもりなら、JR浦和駅からの路線バスで、「念仏橋」で下車するのが便利です。

(佐々木 明男)

見沼たんぼの仲間たちNo.44

当会の見沼たんぼの水田保全活動も
今年20年目を迎えました。

NPO法人見沼ファーム21

埼玉県が「見沼田んぼの保全・活用・創造の基本方針」のもと、平成10年「公有地利活用推進事業」を開始、それを受けて11年、それまで見沼たんぼ保全運動に関わっていた市民たちで会を結成、県の委託事業として公有地の水田で県民参加の「米づくり体験活動」をスタートさせました。当初加田屋新田の水田一か所3,600m²で、会員12名と農家さんの協力で始まった活動も20年目の今、公有地九か所約23,700m²、会員100名、各種農機具もサイサン環境保全基金様などの助成を受け保有、また体験活動に参加された県民の皆さんは延べ7,500名を超えるまでになりました。



またこの活動から以下のような活動等にも広がってきました。

○田んぼの生きもの調べ（平成21年～）

大勢の体験参加者が草取り・草刈りは人手。そのお陰で無農薬を続けた田んぼにいろいろな生き物が見つかるようになり、毎年子どもたちと一緒に生き物調べを実施し、環境教育の機会として取り組んでいます。



○「見沼たんぼありがとう米」提供（平成18年～）

公有地で収穫した米の一部を「見沼たんぼの恵み」への感謝の思いを託し、更に見沼たんぼのPRとして県内の福祉、教育、環境団体などに毎年提供しています。

○「農作業の受委託方式」による稲作農家への「援農」（平成20年～）

公有地周辺の稲作農家から頼まれ、NPO法人化を契機に取り組み、今9農家約50,000m²で米づくりに協力しています。



○見沼たんぼの藁塚「フナノ」の復元・制作（平成20年～）

かつて見沼地域で農家が藁を保存し活用するために作られていたという藁塚「フナノ」を農家の指導で50年ぶりに復元。

その後貴重な文化遺産として今後も継承していくため、見沼で活動している団体や農家、市民たちで「フナノ保存会」を結成。「フナノ」を通して藁の文化や稲作の大切さを伝えていくことになりました。2年毎に制作する「フナノ」、今年は制作の年です。

今年思いがけないうれしいことがありました。大宮そごうデパートがお正月の「福袋」に“埼玉10の体験福袋”を企画され、その一つに「見沼



たんぼの米づくり体験」が含まれました。そして何とその10のうち2番目の人気、抽選で5組が選ばれたとのこと。ちなみに1位は「ライオンズの始球式」その他鉄道博物館や盆栽づくりなどの体験を抑えての2番です。

見沼たんぼと米づくりが都会の人々に関心を持たれている、と、そんな思いで今年も意義のある楽しい活動にしたいと考えています。

（理事長・島田由美子記）

見沼たんぽを支える農家さん

「石井実生園」石井克司さん

大宮駅東口からバスで東へ約10分、中川坂上バス停からすぐのところに、ハナミズキやロウバイ、ハンカチの木、牡丹などのお花見スポットがあるのをご存知ですか。

石井実生園では、せっかくきれいに咲いた花を多くの人に楽しんでほしい、とハナミズキの生産農場（畑）を無料開放しています。お訪ねした時はロウバイがそろそろおしまいという時期でしたが、園内はふわりと芳しいロウバイの香りに満ちていました。

克司さんは石井家の16代目。元々好きだった園芸科に進んだ高校時代、趣味で栽培していたサツキが増えてしまったので販売したところ、ちょうどサツキが流行した時期と重なって、飛ぶように売れたそうです。

卒業後、研修先で初めてハナミズキと出会い栽培を始めると、ちょうどバブル期でハナミズキが人気になります。当時は作っている人がほとんど

いなかったので、注文が殺到。それまでは麦、サツマイモ、米などを作っていましたが、すべて植木に転換し、本格的にハナミズキの栽培を始めました。

(石井克司さん)

ハナミズキ

は関東、特に埼玉、東京、神奈川あたりが一番の栽培適地なのだそうです。

最初は種を蒔くことから。挿し木や接ぎ木などによらないで、種子から芽吹いて成長した植物を実生といいます。だから名前が「実生園」なんだよ、と話してくれました。



そうして自然交配させた中から、オリジナル品種も3種生まれました。園内のあちこちには、かわいい動物の置物が顔をのぞかせています。親と



来た子供たちが飽きないようになると心配りですが、大人も思わず探してみてたくさんります。

また、平成3年から毎年、中学校の体験学習

を受け入れています。きちんと本格的な仕事を体験してもらうことが大切だと、仕事に必要な地下足袋は様々なサイズを用意してあるそうです。まず足袋のコハゼをかけるところから始まり、期間中は従業員の一員として、お客様に対してはきちんと挨拶してもらうようにしているそうです。

見沼も高齢化と後継者難が大きな課題となっていますが、親がやりがいを感じているかどうかが大事だと、石井さんは言います。自分の仕事に誇りを持つ、ウソでもいから自分の仕事が一番いいと思うこと。そうするといいアイデアが浮かぶ。人生は日にちに換算すると意外と短い。80歳まで生きたとしても、3万日もない。だから一日一日が貴重。どうせ生きるなら楽しく生きたい、と爽やかに語る石井さん。園内にすくとびたハクモクレンの大木に、その姿が重なるように感じました。

取材：島田由美子・高橋いずみ

文責：高橋いずみ

石井実生園 さいたま市見沼区南中丸75

電話番号 048-684-2781

*植木や苗木の生産販売の他、造園、庭園管理、伐採、園芸相談も行っています

*今年のハナミズキまつりは4月21、22日に開催されます

*URL・・・・<http://issior.com/hanamizuki/>

見沼たんぽくらぶのイベント案内

平成30年度見沼たんぽくらぶ総会

日時：4月14日（土）10時
会場：見沼グリーンセンター中会議室
交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩
約10分（見沼代用水西縁東側）

第73回見沼の自然と史跡を訪ねて

日時：4月14日（土）13時
集合地：市民の森正門

- ◆ 神明社…見沼公園（サトザクラ）…鷺神社
…見沼2丁目田圃（春の七草）…市民の森
申込み：当日、集合地12時30分
参加費：¥500（ただし、会員無料）

見沼ふれあい農園づくり『京芋・里芋・
八つ頭・生姜栽培 会員限定・無料
農園：1号地（緑区見沼610・613）
＊収穫物は福祉施設にも寄贈
5月1日（火）種芋植付から8月初旬ま
で5回除草し、晩秋に収穫。
8時現地集合（7時30分受付）
◎4月20日までに、事務局へはがきや
FAXなどで申し込む。
(住所・氏名・電話 明記のこと)

第74回見沼の自然と史跡を訪ねて

日時：5月26日（土）9時
集合地：浦和駅東口集合
(路線バスで大崎公園へ)

- ◆ 大崎公園…園芸公園…浦和くらしの博物館
民家園（念仏橋バス停）
申込み：当日、集合地で8時30分

見沼塾講演『見沼代用水の歴史と現状』

日時：6月16日（土）10時
会場：見沼グリーンセンター中会議室
講師：清水 実氏（見沼代用水土地改良区
企画調整室 室長）

見沼たんぽくらぶ入会を勧めます

見沼たんぽをもっと知りたい
見沼たんぽの自然にふれてみたい

見沼たんぽで何かしたい
見沼たんぽ保全に協力したい
そんな皆さまをお待ちしています！

- ◆ 季刊『みぬま通信』カラー版郵送
4月・7月・10月・1月発行
- ◆ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに見沼
たんぽ地域の里やまで、様々な体験事業を
展開。子どもから年寄りまで気楽に楽しめ
るイベントです。
- …見沼ふれあい農園づくり
農地はスタッフが耕運し、畝づくり
を済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫
までの作業です。
- 「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野
菜栽培」などを楽しみ、福祉施設にも寄
贈しています。
- …自然観察ハイキング
自然観察指導員のガイドで、年4回、史
蹟を巡りながら花や鳥などを見て回ります。
- …見沼たんぽ清掃ボランティア
- …斜面林の体験学習
- …見沼塾—見沼の自然や文化を学ぶ講
座。年4回。
- ◆ 年会費 個人（同居の家族単位）1口
1,000円以上
団体・企業 3口 3,000円以上

みぬま通信第74号

発行日 平成30年月4月1日

発行所 見沼たんぽくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町

1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatano.web.fc2.com/>

© 2018 Minuma Tuusin